

各関係機関の長
各病虫害防除員 殿

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター所長

平成 2 1 年度病虫害発生予報第 1 号について

平成 2 1 年度病虫害発生予報第 1 号を発表したので送付します。

平成 2 1 年度病虫害発生予報第 1 号

向こう 1 か月間における農作物の主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。

○ 発生予報の概要

作物名	病虫害名	発生量の 平年比	記載ページ
早期水稲	葉いもち	並	2
	イネミズゾウムシ	並	2
	スクミリンゴガイ	並	2
冬春きゅうり (半促成)	べと病	やや少	2
	うどんこ病	やや多	2
	褐斑病	並	2
	ミナミキイロアザミウマ	並	3
	タバココナジナミ類	やや多	3
冬春ピーマン	うどんこ病	並	3
	斑点病	やや多	3
	ミナミキイロアザミウマ	やや多	3
	タバココナジラミ類	前年より多い	3
	黒枯病	前年より少ない	4
冬春トマト	灰色かび病	やや多	4
	葉かび病	やや多	4
	タバココナジラミ類	やや多	4
	トマト黄化葉巻病 (TYLCV)	前年と同程度	4
野菜・工芸作物全般	アブラムシ類	やや多	5
	ハスモンヨトウ	並	5
かんきつ	そうか病	並	5
	かいよう病	並	5
	灰色かび病	—	5
	ミカンハダニ	やや多	5
果樹共通	カメムシ類	—	6
茶	炭疽病	やや少	6
	カンザワハダニ	やや多	6
	チャノコカクモンハマキ	並	6
	チャハマキ	並	6
	チャノホソガ	並	7
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	7
	チャノキイロアザミウマ	やや多	7
	ツマグロアオカスミカメ	並	7
	クワシロカイガラムシ	並	7

○ 作物の生育状況(4月中旬)

早期水稲は、移植後低温の影響により葉先の黄化・枯れが見られ、葉幅が小さくやや軟弱傾向である。冬春きゅうり・冬春ピーマン・冬春トマトは収穫期。茶は発芽展開期。かんきつは新梢伸長期であった。

○ 5月の気象予報

天気は数日の周期で変わり、気温、降水量、日照時間はいずれも平年並の確率40%と予想されている。(1か月予報 鹿児島地方気象台4/24発表)

○ 発生予報の根拠および防除対策

早期水稲

1 葉いもち（並）

[予報の根拠]

(1) 天気は数日の周期で変わり、気温、降水量のいずれも平年並の確率40%と予想されている。

[防除上の注意]

(1) 補植用の取り置き苗は、葉いもちが発生しやすく伝染源になるので、補植が終わったら速やかに処分する。

(2) 曇雨天が続く場合はあらかじめ粒剤を施用するか、または葉いもちの早期発見に努め、病斑が認められたら直ちに粉剤または液剤で防除する。

(3) 同一系統の薬剤の連用は、薬剤耐性菌が発生しやすいので避ける。

2 イネミズゾウムシ（並）

[予報の根拠]

(1) 天気は数日の周期で変わり、気温は平年並の確率40%と予想されている。

[防除上の注意]

(1) 成虫が10株当たり5頭以上のほ場では、粒剤の水面施用を行う。水面施用に当たっては水管理に十分注意し、水深が3cm程度になるように調整し、少なくとも4日間はかけ流しや落水はしない。

3 スクミリングガイ（並）

[予報の根拠]

(1) 4月中旬の発生面積率13.2%（平年12.1%）、 m^2 当たり貝数0.2頭（平年0.6頭）はいずれも平年並である。

[防除上の注意]

(1) 水田の入排水口には金網を張り、貝の侵入を防止する。

(2) 貝の生息数が多い場合は、捕殺するか粒剤の水面施用を行う。

(3) 粒剤の水面施用に際しては、水管理に十分注意し、水深が3cm程度になるように調整し、少なくとも4日間（薬剤によっては7日間）はかけ流しや落水はしない。

冬春きゅうり（半促成）

1 べと病（やや少）

[予報の根拠]

(1) 4月中旬の発生面積率37.5%（平年61.3%）、発病葉率1.4%（平年11.8%）はいずれも平年よりやや少である。

[防除上の注意]

(1) ハウス内の換気を良くし、高温多湿にならないように注意する。

(2) 窒素切れや成り疲れによる草勢の衰えは、発生を助長するので適切な肥培管理に努める。

2 うどんこ病（やや多）

[予報の根拠]

(1) 4月中旬の発生面積率25.0%（平年26.3%）は平年並、発病葉率6.3%（平年3.3%）は平年よりやや多である。

[防除上の注意]

(1) 整枝・誘引・老化葉の摘葉等を行い、採光・通風を良くする。

(2) 耐性菌の発生を避けるため、同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤を輪番で使用する。

3 褐斑病（並）

[予報の根拠]

(1) 4月中旬の発生面積率25.0%（平年33.8%）は平年並、発病葉率0.6%（平年3.8%）は平年よりやや少である。

[防除上の注意]

- (1) 発生が多くなると防除効果が上がりにくいので、初期防除を徹底する。
- (2) 窒素質肥料の多用は発病を助長し、過繁茂になって通風を妨げるので適正な肥培管理に努める。
- (3) ベと病、うどんこ病の発生後には、激発することがあるので、両病害の防除を徹底する。

4 ミナミキイロアザミウマ (並)

[予報の根拠]

- (1) 4月中旬の発生面積率0.0% (平成11.2%)、1葉あたり虫数0.05頭 (平成0.20頭) はいずれも平成並である。

[防除上の注意]

- (1) 本虫は薬剤抵抗性を獲得しやすいので、同一薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤を輪番で使用する。
- (2) 収穫の終わった発生ハウスは、蒸し込み等により本虫を死滅させ、ハウス外への拡散防止や次期作の発生源を絶つよう努める。

5 タバココナジラミ類 (タバココナジラミ ハイオタイプQ) (やや多)

[予報の根拠]

- (1) 4月中旬の発生面積率37.5% (平成23.2%) は平成よりやや多、100葉当たり虫数1.0頭 (平成0.8頭) は平成並である。

[防除上の注意]

冬春トマトを参照 (4ページ)

冬春ピーマン

1 うどんこ病 (並)

[予報の根拠]

- (1) 4月中旬の発生面積率30.8% (平成54.1%) は平成よりやや少、発病葉率5.3% (平成7.8%) は平成並である。

[防除上の注意]

- (1) 乾燥した条件で発生しやすいので、乾燥しすぎないように注意する。
- (2) 適切な肥培管理を行い、また、茎葉が過繁茂にならないよう整枝を行い、発病葉は除去する。
- (3) 収穫終了後は、ハウスを密封して病葉上の病原菌を高温で死滅させるか、病葉残渣を持ち出して処分し、次期作の伝染源を絶つ。

2 斑点病 (やや多)

[予報の根拠]

- (1) 3月中旬の発生面積率69.2% (平成36.2%)、発病葉率6.0% (平成4.3%) はいずれも平成よりやや多である。

[防除上の注意]

- (1) ハウス内が高温多湿にならないように、換気と水管理に注意する。また、整枝を行って茎葉が過繁茂にならないようにする。
- (2) 病原菌が植物体に侵入した後では防除効果が上がりにくいので、予防散布を行う。

3 ミナミキイロアザミウマ (やや多)

[予報の根拠]

- (1) 4月中旬の発生面積率76.9% (平成43.7%) は平成より多、10花当たり虫数3.0頭 (平成1.8頭) は平成よりやや多である。

[防除上の注意]

冬春きゅうりを参照 (3ページ)

4 タバココナジラミ類 (タバココナジラミ ハイオタイプQ) (前年より多い)

[予報の根拠]

- (1) 4月中旬の発生面積率は7.7% (前年6.7%)、100葉当たり虫数は0.2頭 (前年0.1頭) である。

[防除上の注意]

冬春トマトを参照 (4ページ)

5. 黒枯病（前年より少ない）

- (1) 4月中旬の発生面積率は15.4%（前年33.4%、前々年23.1%）、発病葉率は0.4%（前年3.4%、前々年1.0%）である。

[防除上の注意]

- (1) 葉での発生が少なくても、茎部や果梗部、果実表面で発生がみられることがあるので警戒が必要である。
- (2) 高温、多湿条件で発生しやすいので換気等に注意し、早期発見に努める。
- (3) 発生が多くなると防除効果が上がりにくいので、発病を確認したら早めに防除する。

冬春トマト

1 灰色かび病（やや多）

[予報の根拠]

- (1) 4月中旬の茎葉での発生面積率72.7%（平年38.4%）、発病株率4.5%（平年4.1%）はいずれも平年よりやや多、発病果率3.7%（平年1.8%）も平年よりやや多である。

[防除上の注意]

- (1) 多湿条件で発生しやすいので、ハウスの換気を良くする。

2 葉かび病（やや多）

[予報の根拠]

- (1) 4月中旬の発生面積率36.4%（平年24.6%）は平年並、発病葉率9.8%（平年6.3%）は平年よりやや多である。

[防除上の注意]

- (1) 多湿条件で発生しやすいので、ハウスの換気を良くする。
- (2) 発病初期の防除を徹底する。

3 タバココナジラミ類（タバココナジラミ ハイオタイプQ）（やや多）

[予報の根拠]

- (1) 4月中旬の発生面積率36.4%（平年14.8%）は平年よりやや多、100葉当たり虫数15.5頭（平年2.1頭）は平年より多である。

[防除上の注意]

- (1) 気温の上昇とともに活動が高まるので、黄色粘着トラップ等を設置し、本虫の早期発見・早期防除に努め密度を抑制する。
- (2) 発生が多くなると防除効果が上がりにくいので、低密度のうちに防除する。
- (3) タバココナジラミ ハイオタイプQに効果のある殺虫剤が少ないことから、薬剤散布後は防除効果に注意を払い、必要に応じて適宜追加防除を行う。
- (4) 有効な薬剤に対する抵抗性の発達を回避する観点から、同一系統薬剤の連用は極力行避け、ローテーション散布を心がける。また、抵抗性発達の可能性が低いポタニガードES等の微生物農薬や粘着くん液剤等コナジラミ類を物理的に窒息死させる薬剤を防除体系に組み込む。
- (5) 栽培終了後は、防除後蒸し込み等により本虫を死滅させ、ハウス外への拡散防止や次期作の発生源を絶つよう努める。
- (6) ハウスの周辺雑草は休閑期のタバココナジラミ類の生息場所となり、次作への伝染源となるので除草を徹底する。また、ほ場周辺に持ち出したトマト残渣及び野良生えのトマト等には特に注意する。

4 トマト黄化葉巻病(TYLCV)（前年と同程度）

[予報の根拠]

- (1) 4月中旬の巡回調査では発生を認めていない。（前年0.0%前々年33.4%）

[防除上の注意]

- (1) 発病株は伝染源になるので根ごと抜き取り、土中に埋めるかビニル袋に入れて枯れるまで密閉する。ウイルスは植物全体に存在しているので、発病部位を除去しても伝染源になるため、必ず株全体を除去する。

野菜、工芸作物全般

1 アブラムシ類 (やや多)

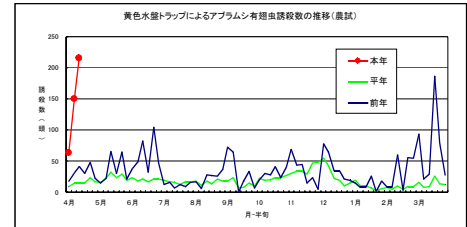
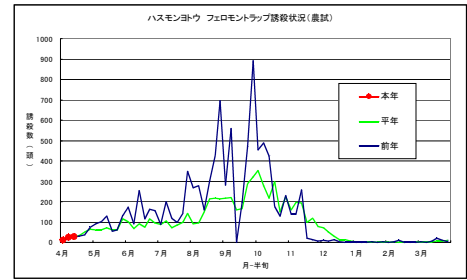
[予報の根拠]

- (1) 黄色水盤トラップによる有翅虫誘殺数(佐土原町)は、平年より多い。

2 ハスモンヨトウ (並)

[予報の根拠]

- (1) フェロモントラップによる誘殺数(西都市、都城市、国富町)は、平年並である。



2009年度
農試内ハスモンヨトウ、アブラムシ誘殺状況

かんきつ

1 そうか病 (並)

[予報の根拠]

- (1) 3月中旬の越冬葉調査では、発生面積率5.0% (平年2.4%) は平年よりやや多、発病葉率0.4% (平年0.1%) は平年より多である。
(2) 4月中旬の新葉調査では、発生を認めていない。
(3) 向こう1か月の降水量は平年並と予想されている。

[防除上の注意]

- (1) 罹病した枝葉は伝染源になるので、発見したら直ちに剪除する。
(2) 防除適期は落弁期・幼果期である。

2 かいよう病 (並)

[予報の根拠]

- (1) 3月中旬の越冬葉調査では、発生面積率10.0% (平年23.6%)、発病葉率1.2% (平年2.9%) はいずれも平年並である。
(2) 4月中旬の新葉調査では、発生を認めていない。
(3) 向こう1か月の降水量は平年並と予想されている。

[防除上の注意]

- (1) 罹病した枝葉は伝染源になるので、発見したら直ちに剪除する。
(2) 防除適期は開花直前、落花後、梅雨期、秋芽生育期である。

3 灰色かび病

[防除上の注意]

- (1) 本年は表年に当たり着花数が多く、また、開花期から落弁期にかけて降雨があると本病の発生に好条件となるので特に注意が必要である。防除適期は落弁期である。
(2) 幼果表面に付着した発病花卉から幼果に伝染するので、枝をゆするなどしてできるだけ花卉の離脱を促す。

4 ミカンハダニ (やや多)

[予報の根拠]

- (1) 4月中旬の発生面積率35.0% (平年27.3%) は平年並、寄生葉率9.1% (平年6.2%) は平年よりやや多である。

[防除上の注意]

- (1) 生息密度が高くなると防除が困難になるので、寄生葉率30% (1葉当たり虫数0.5~1頭) を目安に防除を行う。

果樹共通

1 カメムシ類

[防除上の注意]

- (1) 昨年秋期の発生が多く、越冬個体数はやや多いと予想される。果樹カメムシ類は園外から飛来し、地域や時期によって発生量が大きく変動するので、ウメやモモなどの結実中の果樹類では飛来に注意し、初期防除を徹底する。

茶

1 炭疽病 (やや少)

[予報の根拠]

- (1) 4月中旬の発生面積率7.7% (平年29.1%)は平年より少、 m^2 当たり病葉(旧葉)数0.2葉 (平年1.2葉)は平年よりやや少である。
- (2) 5月の降水量は平年並と予想されている。

2 カンザワハダニ (やや多)

[予報の根拠]

- (1) 4月中旬の発生面積率61.6% (平年42.2%)、寄生葉率8.0% (平年5.3%)はいずれも平年よりやや多である。

[防除上の注意]

- (1) 同一薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を実施する。
- (2) 合ピレ剤の使用は、リサージェンスが発生しやすいので注意が必要である。

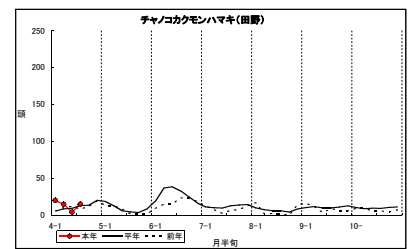
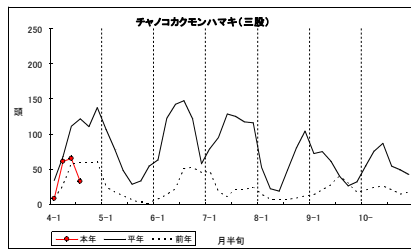
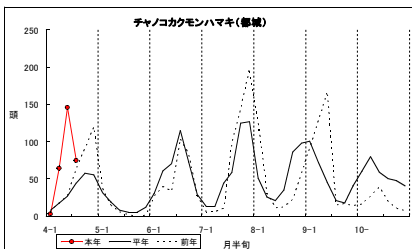
3 チャノコカクモンハマキ (並)

[予報の根拠]

- (1) 4月中旬の巡回調査では発生未確認である。

[防除上の注意]

- (1) フェロモントラップによる誘殺状況では、都城市では4月前半から誘殺数が多く、発生時期が早い状況である。
- (2) 顆粒病ウイルスによる防除適期は、第1世代に対しては越冬世代の発蛾最盛期の17日後、第2世代に対しては第1世代の発蛾最盛期の10日後である。
- (3) 本年は防除適期が一番茶の時期と重なり、適期防除が困難であると考えられるので第2世代以降に重点的に防除する。



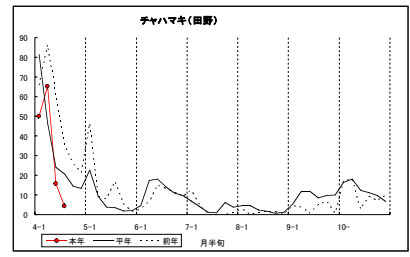
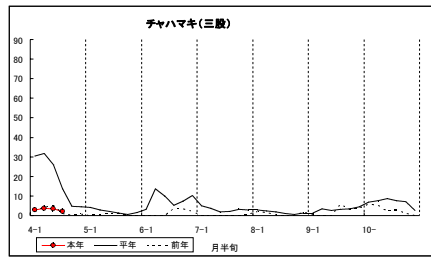
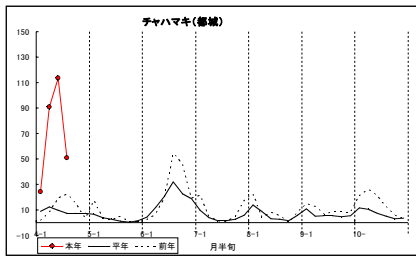
4 チャハマキ (並)

[予報の根拠]

- (1) 4月中旬の巡回調査では発生未確認である。

[防除上の注意]

- (1) フェロモントラップによる誘殺状況では、4月2～4半旬の誘殺数が特に多い地域があり、チャノコカクモンハマキ同様注意が必要である。
- (2) 本年は防除適期が一番茶の時期と重なり、適期防除が困難であると考えられるので第2世代以降に重点的に防除する。



5 チャノホソガ (並)

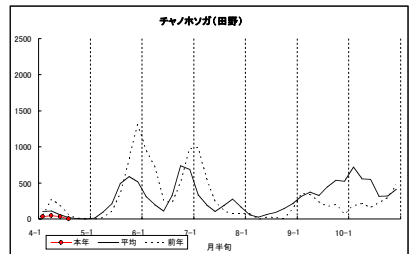
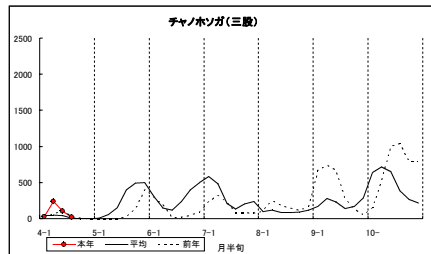
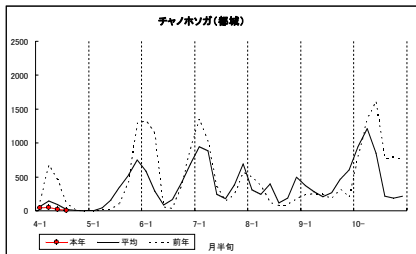
[予報の根拠]

(1) 4月中旬の巡回調査では発生未確認である。

[防除上の注意]

(1) フェロモントラップによる誘殺状況では、4月後半頃が発蛾最盛期であったと考えられる。

(2) 本年は防除適期が一番茶の時期と重なり、適期防除が困難であると考えられるので第2世代以降に重点的に防除する。



6 チャノミドリヒメヨコバイ (並)

[予報の根拠]

(1) 4月中旬の巡回調査では発生未確認である。

[防除上の注意]

(1) 例年、二番茶期から発生が増えてくるので注意する。

7 チャノキイロアザミウマ (やや多)

[予報の根拠]

(1) 4月中旬の発生面積率38.5% (平年32.5%) は平年並、払落虫数2.2頭 (平年1.2頭) は平年よりやや多である。

[防除上の注意]

(1) 二番茶期に向けた防除対策に重点をおく。

8 ツマグロアオカスミカメ (並)

[予報の根拠]

(1) 4月中旬の発生面積率15.4% (平年13.1%)、 m^2 当たり被害葉数0.2頭 (平年0.9頭) はいずれも平年並である。

[防除上の注意]

(1) 茶以外の植物にも寄生するため、ほ場周りの除草を行う。

9 クワシロカイガラムシ (並)

[予報の根拠]

(1) 4月中旬の発生面積率30.8% (平年29.5%)、寄生株率6.9% (平年11.4%) はいずれも平年並である。

[防除上の注意]

(1) 第1世代幼虫の防除適期は幼虫ふ化開始から2週間後、または幼虫ふ化最盛期であるので、ふ化状況をよく観察し防除する。

(2) 薬剤散布量は、成園で10a当たり1,000リットルを目安に、枝幹に十分かかるようにいねいに行う。

○ その他

- 1 農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。
日本植物防疫協会ホームページ <http://jppn.ne.jp>
農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>
農林水産消費安全技術センターホームページ
(旧 農薬検査所) <http://www.acis.famic.go.jp/>
- 2 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。
特に水質汚濁性農薬ベンゾエピン剤（商品名、マリックス乳剤、粒剤等）は使用しないこと。
- 3 発生量（程度）の区分
多 い (高 い) やや多いの外側10%の度数の入る幅
やや多い (やや高い) 平年並の外側20%の度数の入る幅
平年並 平年値を中心として40%の度数の入る幅
やや少ない (やや低い) 平年並の外側20%の度数の入る幅
少 ない (低 い) やや少ないの外側10%の度数の入る幅
(平年値は過去10年間の平均)
- 4 予察情報の種類
病害虫防除・・・肥料検査センターから発表する情報は次の5つです。
(1) 予 報・・・向こう1か月の発生状況を予測し、毎月25日前後に発表する。
(2) 注 意 報・・・主要な病害虫の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。
(3) 警 報・・・主要な病害虫の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に発表する。
(4) 特 殊 報・・・県内で初めて発生を認めた病害虫がある時や、病害虫の発生様相が特異な時に発表する。
(5) 防除情報・・・注意をうながす必要がある病害虫の発生状況や、各種の防除技術指導情報について随時発表する。

○ お知らせ (<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>)

病害虫防除・肥料検査センターでは、ホームページで情報を提供しています。予察情報の根拠となる地域別調査データ、防除対策等を掲載しています。ぜひご利用ください。

【文書取扱】	ホライ
病害虫防除・肥料検査センター	生頼
TEL:0985-73-6670	FAX:0985-73-7499
E-mail: byogaichu-hiryo	
	@pref.miyazaki.lg.jp